

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

3年分の感謝を… 本当にありがとう！

昨日の空は、青く高く晴れ渡り、春爛漫の一日でした。

今日は少し下り坂のお天気で、明日は雨が降りそうです。伊万里湾からの風は随分とあたたかくなり、また今年も春が巡ってきたことを実感します。

いつもの年なら春の訪れを喜んで迎えますが、今年はずっと時が過ぎてほしいと思ってしまう。今朝の佐賀新聞で発表されましたが、三年間お世話になったこの青嶺中学校を去ることになりました。

千日以上を過ごした心地よい学校を離れると思うと寂しさが募ります。爽やかな空気と美しい自然、素晴らしい生徒と先生たち、地域の方々には感謝しかありません。いくら言葉を尽くしても足りませんが、三年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

Mr.リーとの思い出②

(19号から続く…)

当たり障りのない会話からいきなり「南と北は統一したほうがいいと思うか？」と尋ねられました。彼は授業の中でもカンボジアのクメールルージュや、アイルランドのIRAのことなど国際情勢や紛争地帯のことを良く知っており、深く議論を掘り下げています。韓国と北朝鮮が「休戦状態」であり関係が難しいことは私も少しは知っていました。

突然聞かれ、戸惑いましたが一生懸命に自分の考えを言葉にしました。「家族や親せき、友だちと会えない今の状況はおかしいと思う。自分なら耐えられないから元の一つの国に戻り、皆が平和に暮らしてほしい」と伝えました。「本当にそう思うか？」と繰り返されたので「本気だ、他の国の都合で引き裂かれるのはおかしい」と返しました。彼はうっむき、何回か頷きました。

翌朝会々と、Mr.リーのほうから挨拶してくれました。そしてそれから色々な話をする

ようになりました。彼の心の壁が壊れた理由は分かりませんが、裕福であったわけではなく、企業から派遣されてきたMr.リーにとっては初めて接する日本人の大学生だったのかもしれない。

これまで受けてきた教育で彼が抱いていた「日本人」像は決して良いものではなかったのだと思います。ですが彼が最も聞きたかった疑問を、日本人が自分の言葉で誠実に応えてくれたことで、頑なだった彼の心が少し和らいだのだと感じました。

教育や環境によって生まれる偏見や思い込み、そして差別心は歴史的な背景があるとより複雑になります。オーストラリアというお互いの国から遠く離れた場所、英語を通して初めてお隣の国の隣人と、一人の人間同士の関わりが持てたのです。

それからは韓国人街と一緒に買い物に行き、自家製のキムチを漬けたり、病気になるたびに薬をかけてくれ、薬をもってきてくれたりと、チョンと私の本気の兄のように世話を焼いてくれました。クラスで撮った写真、本当は、本当に喜んでくれ、焼き増しをして韓国の妻に送ったそうです。

十週間後にACUを卒業しパラマタの日本食レストランでアルバイトを始めた私は、Mr.リー

と会う機会がぐっと減りましたが遊びに来てくれた時はこれまで通りに仲良く話をしていました。

ある日の朝、電話が鳴り、出てみるとMr.リーからでした。なんだか元気がなく、どうしたのか尋ねたら「今はシドニーの空港から電話している。家族の問題が起って今から韓国に帰らなければならぬ。もう少し勉強したかったけど仕方ない。色々ありがとう、とても楽しかった。チョンのことをよろしく頼む。お前はチョンの兄なのだから」と…それがMr.リーと交わした最後の言葉でした。

私が「対話」の大事さを繰り返し伝えるのはそんな体験をしたからというの大きいです。互いを「知る」ためには「対話」するしかありません。誤解・偏見・思い込みからくる差別心などは、対話をすることで取っ払えます。

韓国語で「パッチギ」という言葉があります。映画のタイトルにもなり「頭突き」という意味ですが、「心の壁をぶっ壊す」という意味の比喩的な用いられ方も含まれるそうです。

Mr.リーと私がそうだったようにお互いが知りたい、知ろう、伝えたい、受け止めようというマインドさえあれば、きっと分かり合えますし、個人のみならず国同士でさえ互いが信じあい、愛し合える関係が築けると信じています。人間同士で素直な気持ちで向き合い、素直な言葉で対話しそして素直な気持ちで受け入れましょう。

校長室より

昨日は転校する1年生の原田さんのラストライブを音楽室で行い多くの生徒たちや関係した方々が見に来てくれました。ドラムメイソンでしたが、同じ1年の小林さんがピアノで、私もウィンドシンセサイザーで参加し三人でレットイットビーを合奏しました。皆が一体となった素敵な、素晴らしい時間でした。原田さんの「青嶺中学校で良かった」という言葉が本当に嬉しかったです。

この便りも今年度の異動のお知らせをもって最後になります。文字ばかりで読みにくい学校通信にこれまでお付き合いいただきありがとうございました。本当に感謝しかありません。これまで共に学校を支えてきた教職員の異動を次に記します。

・田中泰司校長 東与賀中へ異動